

# 平成27年度 教職員との福祉学習についての交流会



～ 当日の記録 ～



社会福祉法人 川崎市多摩区社会福祉協議会  
福祉教育推進委員会

日時：平成27年6月11日（木）14：00～16：00

場所：多摩市民館 3階 大会議室

当日の参加者：22名

【教職員 10名（小学校 6名、中学校3名、高等学校1名）、福祉関係団体 12名】

## 一 次 第 一

### 1 開会・趣旨説明

### 2 第1部



(1) 講話 「福祉教育って何?～なぜ福祉教育を行う必要があるのか～」

講師：高木 寛之 氏

川崎市多摩区社会福祉協議会 福祉教育推進委員会 委員長

山梨県立大学人間福祉学部福祉コミュニティ学科 講師

(2) 福祉教育ハンドブックについて



(3) 福祉用具の説明・体験



### 3 第2部 交流会

### 4 まとめ・アナウンス

### 5 閉会



## はじめに <高木委員長よりお願い>



初めに、皆様にお願ひがあります。本日、入り口で皆様にお配りした資料に2枚の付箋が貼られていると思います。その内、黄色、もしくは水色の付箋に、ご記入いただきたいことがあります。福祉教育についてどの程度知っているか・実践しているかを5段階で表してください。1が全然分からない・やったことがない、5がよく知っている・ベテランであるとして、今の自分がどのくらい福祉教育について知っているかを数字で表してみてください。また、本日の交流会で知りたいこと、聞いてみたいことなどがありましたら、そちらもご記入をお願いします。(結果については12頁 別紙参照)



## 開会・趣旨説明



### <開会：赤羽委員>

福祉教育推進委員会には、小学校教諭という立場で参加しております。今年度からの参加で、分からないことも多いですが、委員の皆様と一緒に本日の交流会に向けて懸命に取り組んでまいりました。それでは、福祉教育推進委員会副委員長の佐藤から、開会及び今回の交流会の趣旨説明をさせていただきます。



### <趣旨説明：佐藤委員>



傾聴ボランティアの「きぼう」から、福祉教育推進委員会に参加しております佐藤です。「傾聴」というのは、利用者様と私たちが7:3の割合で、利用者様に多くお話しいただくことを心がけて活動しているボランティアです。

本日はお忙しい中、「平成27年度 教職員との福祉学習についての交流会」にご出席いただきまして、ありがとうございます。多摩区内の福祉教育をより一層推進するため、区内の教職員と福祉学習に携わっている方が交流できる機会を設け、福祉学習について、また福祉用具の活用方法について、より一層理解を深め今後の福祉学習に活かしていただくことを目的に開催いたします。

## 講話



### 「福祉教育って何？～なぜ福祉教育を行う必要があるのか～」

講師：高木 寛之 氏

川崎市多摩区社会福祉協議会 福祉教育推進委員会委員長  
山梨県立大学人間福祉部福祉コミュニティ学科 講師

始めに、皆さんに記入していただいた付箋を回収させていただきます。この付箋で、本日ご参加いただいた学校の先生方と福祉関係団体の皆様が、普段福祉教育にどの程度携わっているのかを調べたいと思います。

本日お越しくださった学校の先生方は、福祉教育がまだ良く分からないどちらかという新人の方、それなりに経験されている方が中心で、福祉関係団体の方々はベテランが多いようです。

そこで、皆様の一つお願いがあります。福祉関係団体の皆様、本日は学校の先生方を「何でこんなことも知らないの？」等と責めないであげてください。先生方が分からないことは、優しく教えてさしあげてください。



「福祉」という言葉を聞いた時に、まず皆さんが思い浮かべるのが「介護」という言葉だと思います。しかし、福祉は「介護」だけではありません。他にも、「保育」「相談」「運営」などがあります。では、なぜ学校等で行われる福祉教育では「介護」ばかりが取り上げられるのでしょうか。それは、分かりやすいからです。例えば、「相談」の内の一つに佐藤副委員長が取り組んでいる「傾聴」というものがあります。この「相談」というものも大切な福祉事業の一つです。しかし、学校の福祉教育ではほとんど取り上げられません。「今日は皆で相談の受け方について勉強してみましょう」というのは、非常に分かりにくいからです。そのため、学校で福祉教育をする時には、「高齢者」や「障害者」という題材がよく挙げられます。その場合、施設等に訪問することも多いかと思いますが、ここで気を付けていただきたいのは、「とりあえずやってみよう」という姿勢です。このような姿勢では取り組まないように注意してください。

例えば、子ども達が老人ホームに訪問した後に感想としてよく聞くのが、「介護は大変だと思った」「自分には介護職は無理だ」というような言葉です。子ども達は「介護」をするために訪問したのでしょうか？しかし、「とりあえずやってみよう」という姿勢で子どもたちに施設訪問をさせると介護という側面が強く強調されることがあり、何も知らない中での介護に、結果的に「いやだな」という気持ちが生まれてしまいます。

「無関心」の状態ですら突然「行動」に移してみると、理解や共感を得る等、劇的に変化が起こる可能性もあります。しかし、拒絶反応を起こす可能性もあります。ボランティアを経験しても継続している人が少ない理由は、ここに 있습니다。学習を味かにした状態で行動に移しても、心の準備ができていないので、拒絶感に繋がる可能性がでてきてしまうのです。



では、どのように学習、心の準備をすれば良いのでしょうか。福祉学習としてよく行われるものの一つに「体験」という方法があります。「高齢者」や「障害者」を題材として挙げた場合によく実施されるのが、後で皆さんにも体験していただく、「高齢者擬似体験」や「車いす体験」です。体験をするにあたり注意しなければならないことがいくつかあります。一つは、「体験」を目的にしないことです。例えば、子ども達に車いすの体験をさせたとします。坂道や障害物を作って子ども達に車いすで通るように指示する、という体験をよく見受けられます。その時の感想としてよく出るのが、「重くて押すのが大変だった」「上手に押すことができた」「大変だった」というようなものです。しかし、車いすを使っている方は本当に大変なのでしょうか。現在、バリアフリーはとも進んでいて、ほとんどの駅にエレベーターがついています。バスや電車を利用する際に職員の方に声をかけると、スロープを出してもらえます。本日、車いすユーザーの方もいらしています。このように、車いすに乗っていても「行こう」という意志さえあれば、電車に乗って移動することができるのです。

「体験」で一番大切なことは、「当事者の生活」を知ることです。車いすを体験するなら、車いすに乗るだけでなく、トイレに行ってみる、机で何かを書いてみる・描いてみる等、当事者の「生活」を体験していただきたいのです。体験は、当事者の日常生活がどのように見えるか「気づく」ための導入手段なのです。

そして、もう一つ大事なのが、「当事者との交流」です。福祉教育で多く行われる実践に手話や点字があります。この手話や点字は本来、視覚障害者や聴覚障害者とのコミュニケーションをとるためのものです。しかし、手話や点字を覚えるだけで、当事者との交流が無いまま終わってしまっている学校も多く見受けられます。中には手話コーラスの発表を行うという実践もありますが、その際は発表だけで終わらせず、当事者との交流をする時間をとることが大切です。



この「体験」と「当事者との交流」の双方を経験し、初めて福祉教育としての意味を成します。では、実際にどのように体験を行えばいいのでしょうか。本日、この後実際に皆様にも体験して頂きますが、その前に福祉用具の使い方について説明させていただこうと思います。説明するにあたり、先生方の中からお一人ご協力いただきたいと思います。

## 体験



それでは実際に先生にモデルになっていただき、体験してみましょう。今先生がつけていらっしゃるの「白杖」と「アイマスク」です。こちらは視覚障害者について学ぶためのものです。この白杖を使った福祉教育を行う際に学校でよく行われているのが、2人1組になってモデルコースを歩いてみる、というものです。それでは実際に歩いていただきましょう。

学校でモデルコースを作る場合、段差などの障害を設けることが多いです。子ども達も当然、アイマスクをしたまま障害がある場所を通ることになりますので、本日は先生にも通っていただきます。今、先生が転びそうになりましたね。このように、子ども達の中でも必ず転びそうになる子が出てきます。その時に、気を付けておかないと、子ども達はそれを面白がってしまいます。また、しばらくすると今度は「1度も転ばないで歩けたよ」というような競い合いが始まってしまうこともあります。

福祉用具の体験を行う際には、「当事者」の体験をすることも勿論大事ですが、それ以上に大事なのが、「サポート役」の体験です。今、サポート役として、入木田委員が先生を支えながら、「段差があります」「もう少し左側へ」とお声掛けをしていました。

この「サポート役」を経験することによって、実際に当事者と接した際に、どのように支えたらいいのかが分かるようになります。福祉用具の体験を行う際にはどうしても、「当事者」体験をする方に注目してしまいがちですが、この「サポート役」体験を大事にしてください。

次に先生に装着していただいたのが、「高齢者疑似体験セット」というものです。先程、「体験」で一番大切なのは「当事者の生活」を知ることだとお話いたしました。では、実際に先生には「生活」を体験していただきましょう。

一口に「生活」といっても、食事、排泄等、色々あります。今回は、皆様に生活を体験していただくために、こちらに飲み物と食べ物をたくさんご用意しています。ロールケーキなんかもご用意していますので、召し上がっていただきましょう。飲み物もお好きな物をお飲みください。食べ物は全てこちら側のテーブルに置いてありますが、お一人で移動するのは大変なので、もう一人先生の中からサポート役としてお手伝いしていただきます。



白杖・アイマスク着用



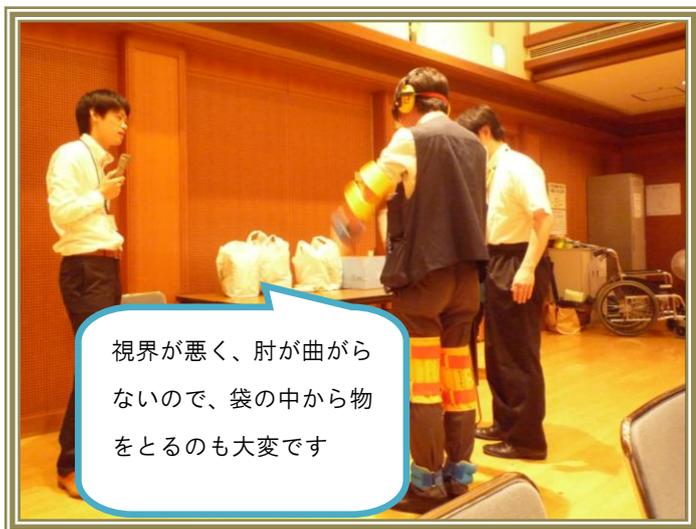
白杖・アイマスクを着用しながらの歩行を体験

サポート役が見守り・声かけ



高齢者疑似体験セットを着用

では、実際に召し上がっていただきましょう。こちらに椅子をご用意していますので、どうぞおかけ下さい。今、サポート役の先生に介助してもらいながらお座りになろうとしています。なかなか座れませんね。これは、ひざに巻いているサポーターのせいで、ほとんど関節が曲がらなくなっているためです。体験の際に、実際に食事をしてみたり、トイレに行ってみたりすることで、当事者がどのように生活しているか、何が大変だと感じるかを知る事ができます。



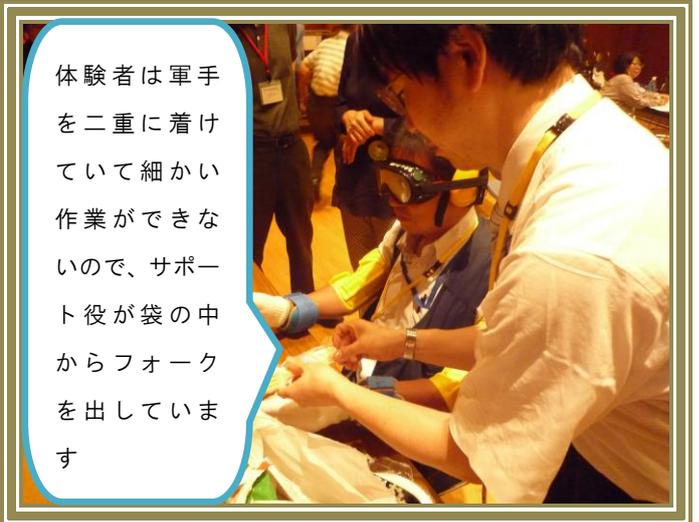
それでは、実際に皆さんにも体験していただきましょう。先生方は2人1組のペアになり、ご興味のある福祉用具を実際に体験してみてください。福祉関係団体の方は、是非先生方に用具の使い方や注意する点などを教えてさしあげてください。

# 体験の様子

先生方に2人1組のペアになっていただき、興味のある福祉用具を体験していただきました。福祉関係団体の皆様には、福祉用具の使い方や注意点を教えていただいたり、一緒に福祉用具について学んでいただきました。



サポート役が、体験者がお茶を零さないように介助しています



体験者は軍手を二重に着けていて細かい作業ができないので、サポート役が袋の中からフォークを出しています



アイマスクを着けながら、サポート役と一緒に坂道を登っています



車いすを押すときの注意点等を教えていただきました



椅子から立ち上がるのも大変なため、サポート役が介助しています



普段白杖をどのように使っているのか、どのようにサポートすればいいのかを、教えていただきました



福祉用具の使い方を一緒に学んでいます



視界が悪いので、サポート役が傍で見守っています

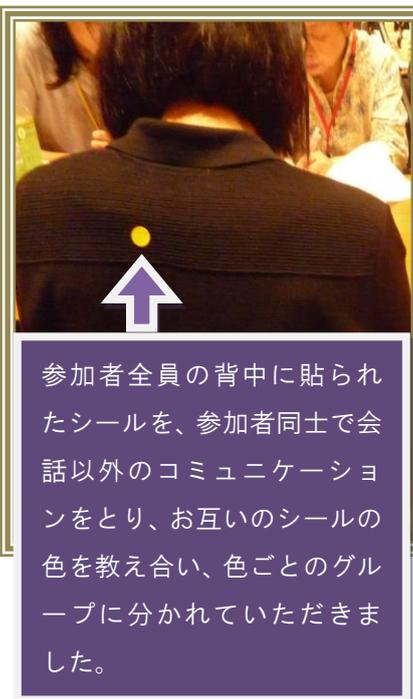


高齢者疑似体験セットは、装着に時間がかかるので、数人で行いました



妊婦体験セットを装着しています

## アイスブレイク：コミュニケーションの方法について



参加者全員の背中に貼られたシールを、参加者同士で会話以外のコミュニケーションをとり、お互いのシールの色を教え合い、色ごとのグループに分かれていただきました。

皆さんが福祉用具の体験をしている時に、背中に色のついた丸いシールを貼らせていただきました。それでは今から、同じ色の人同士で集まって、グループを作ってください。ただし、喋ってはいけません。皆さんは声を出さなくても、コミュニケーションをとることができますよね。話さないコミュニケーションの内の一つに、手話があります。しかし、手話以外にも交流する方法はありますよね。コミュニケーションの方法を、考えてみてください。集まったグループから、交流会ができるように机を設置してお座りください。

皆さんグループで集まりましたね。いかがでしたでしょうか。皆さんしっかりと身振り手振りで、コミュニケーションをとっていましたよね。大事なものは、手話や点字を覚えることではなく、それらを使ってコミュニケーションをとることなんです。このことを是非、子ども達にお伝えいただければと思います。

## 交流会



学校の先生、福祉関係団体、福祉教育推進委員が各2～3名ずつ、5グループに分かれて自由に交流をしました。

### Aグループ

・聴覚障害者は視覚障害者と違い、話しかけられても分からないが、手のひらに文字を書いてもらうと分かりやすい。また、身体に触れられても困る。

・本日の交流会を通して、教師が「何を伝えたいのか」を明確にし、準備を行うことが大切だと感じた。また、体験をした感想を子ども達同士で伝え合うと良いのではないかと感じた。



### Bグループ

・小学校4年生の国語の教科書に福祉に関する文章が掲載されているため、小学校4年で福祉教育を行う学校が多い。

・車いすユーザーとして講師依頼を受けて学校に行った際、100人近い生徒が車いすを押す体験を行う予定であることを当日知った。1人で訪問したため、大勢の生徒に車いすを押されて酔ってしまった。事前に聞いていれば数人で訪問することも検討できたので、事前打合せの重要性を実感した。

### Cグループ

・体験を通して、「普段から自分にはなにができるのか」を生徒なりに見つけて欲しいと感じた。

・初めて福祉教材の体験をしてみて、非常に勉強になった。コミュニケーションの大切さを痛感した。

・困った時に声をかけてもらえると助かること、肌で温もりを感じると安心する事等、体験をしてみて始めて分かることがあるのだと実感できた。





## Dグループ

- ・当事者として講師依頼をされた際は、体験談として自分が実際に困ったこと等を話すようにしている。
- ・困っている方に声をかける際は、声をかけられた側が断る事ができるように配慮することも必要なのではないかな。
- ・体験を行う際は子ども達が「楽しかった」だけで終わらないように、配慮が必要。

## Eグループ

- ・困っている方に声をかける際は、自分にもできることがあるか、何が必要かを考えることが大切。当事者の発信を見逃さないようにしてほしい。
- ・体験も重要だが、何故音の出る信号機があるのか、何故点字ブロックがあるのか、等を考えることも大切。
- ・福祉教育の講師として学校に行った際に、事前に先生方が色々調べてくださっていたことがあり、嬉しく思った。



## まとめ・アナウンス



<高木委員長>

皆様大変盛り上がり上がっていらっしゃいますが、残念ながら終了時刻となってしまいました。交流会の時間が短く、話し足りないと感じられたかと思いますが、来年度以降も本日の続きとしてまた来ていただきたい、という願いも込めて、今回はこの辺りで終了とさせていただきますと思います。

最後にお知らせがあります。最初に入口でお配りした資料の中の、水色のファイルをご覧ください。こちらは、福祉教育推進委員会で今年度改訂をした「福祉教育ハンドブック」というものです。中身をご覧くださいますと、福祉教育を行う際の社会福祉協議会への相談の仕方や、学習系統別のプログラム例、相談時によくある質問内容、多摩区内における福祉教育協力団体・施設一覧など、福祉教育を行う際のヒントがたくさん載っています。こちらのハンドブックを手元に、多摩区社会福祉協議会で福祉教育を担当している職員に、是非相談をしてみてください。しかし、福祉教育担当の職員に相談すれば何とかなる、という訳ではありません。ここに注意してください。



ただ担当職員に全てお任せしたり、よく分からないまま去年と同じ内容をお願いしたりするのではなく、先生方もどんな授業にしたいのか、子ども達に何を学んでほしいのか、を一緒に考えなければいけません。福祉教育担当の職員は、何をしたらいいのかを決めることはできませんが、相談に乗ることはできます。是非、悩んだ時には社会福祉協議会に電話をしてみてください。また、今回様々な福祉関係団体の方が参加してくださいました。交流会でたくさんお話もされたと思います。福祉関係団体の方へ講師をお願いする際には、必ず事前に打合せを行い、本日のようにたくさんお話をしてください。そして、福祉関係団体の皆様は、打合せを行う際には本日のように、先生方に優しくアドバイスをお願いいたします。

それでは、これで交流会を終了とさせていただきます。本日はありがとうございました。

## 閉会



### <入木田委員>

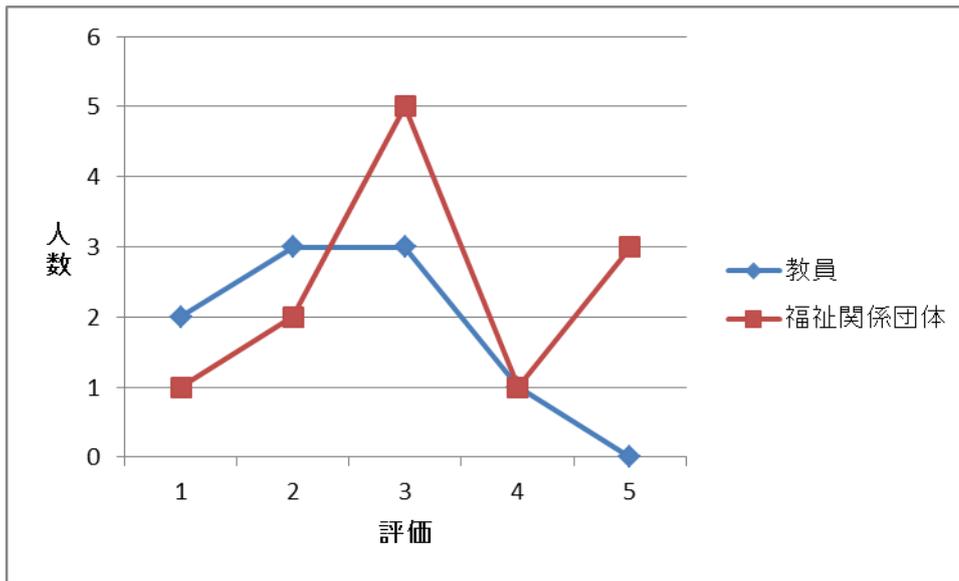
皆様、長時間お疲れ様でした。今回の交流会、いかがでしたでしょうか。また来年度以降も是非、参加していただけると嬉しいです。また、福祉教育推進委員会では、今回の交流会以外にも様々なセミナーを行っています。ご興味がありましたら、他のセミナーにも是非ご参加いただければと思います。それでは、本日は本当にありがとうございました。これにて、閉会とさせていただきます。



○質問:福祉教育についてどの程度知っているか・実践しているかを5段階で表してください。

1:全然分からない・やったことがない ~ 5:よく知っている・ベテランである

人数 \ 評価	1	2	3	4	5
教員	2	3	3	1	0
福祉関係団体	1	2	5	1	3



○知りたいこと・学びたいことがありましたら、ご記入ください。

#### 教員

- ・福祉体験を生徒たちに実施する上での注意点及び心構えなど
- ・老人ホームや障害者施設に子どもたちと交流に行きます。子どもたちは「楽しい時間になりたい！」といろいろ準備をしますが、どんなことをすれば楽しくなるのかよく分かりません。
- ・福祉というと、障害のある方やお年寄りのことについてと捉えがちな子供達に、自分のこととして視点や考える力を身に付けさせるための手立て。
- ・学校で子ども達に福祉体験用具を使って体験させるため際の指導の仕方。(主に使い方、注意する点)
- ・皆さんの福祉に携わることになったきっかけを知りたいです。
- ・福祉教育への動機づけ。

#### 福祉関係団体

- ・当日の資料が欲しい。
- ・主旨とはズレるかもしれませんが、学校と福祉施設との連携はどうやったらスムーズに上手くとれるのかと思っています。
- ・聴覚障害について広めたい。
- ・障害当事者としてのノウハウはありますが、他の分野の福祉教育の分野について、勉強したいと考えております。

# 平成27年度 教職員との福祉学習についての交流会 アンケート 【結果】

H27.6.11

本日は、大変ご多忙のところ「教職員との福祉学習についての交流会」にご参加いただき、誠にありがとうございました。

大変恐れ入りますが、お帰りの前にアンケートへのご協力をお願いいたします。

皆様から頂戴した貴重なご意見につきましては、次年度の教職員との福祉学習についての交流会の企画に活用させていただければと考えております。ご協力の程、よろしくをお願いいたします。

## 1 ご自身についてお教えてください。(○を付けてください。)

性 別		年 齢 層					
男性	女性	20代	30代	40代	50代	60代	70代
6	11	3	2	3	3	5	1

## 2 所属団体があればお教えてください。(○を付けてください。)

福祉関係団体	小・中・高等学校
9	9

## 3 今回の交流会での講義や体験を通じて感じたことや考えたこと、学んだこと、講師や委員へのメッセージなどがありましたら、ご自由にお書きください。

- ・いろいろな立場の方のお話が聞けて良かったです。学校の方に持ち帰り、(本日の内容を)参考にしたいと思えます。(50代 教員)
- ・学校に戻ったら、何が出来るか他の職員と考えていきたいと思えます。(40代 教員)
- ・具体的な内容でしたし、身近な話題だったので理解が進みました。ハンドブックを活用したいと思えます。(40代 教員)
- ・何を体験するのか、何を学習するのかではなく、なぜ体験するのか、なぜ学習するのが大切であることを再確認した。子供達これから生活する中で、自分が出来ること、自分がやれることを自分自身で見つけられるような力を身に着けさせたい。(40代 教員)
- ・体験、大変勉強になりました。まず、教員が体験し、感じ、考えてみることの大切さを学ぶことができました。ありがとうございました。(30代 教員)
- ・自分が福祉教育をやったことがないので、不安が大きかったが、ヒントがたくさんあったので、これから福祉教育について考え、実践していきたい。相手を理解する、そして、自分はどんな手助けができるか、そんな心の芽生えが子供達に育ってくれたらと思えます。(30代 教員)
- ・子どもたちに、体験を通して「当事者を理解して、どう助けることができるか、どうサポートしたらいいのか」「声のかけ方」など、何を考えさせるといいのかなどを話し合いを通して学びました。(20代 教員)
- ・体験が大事というよりも、当事者を知る、ということが大切なんだと目からうろこがおちました。子供達や教員仲間に伝えます。(20代 教員)
- ・福祉やボランティアが「いやだなあ…」にならないように、しっかり段階を考えていきたいと思えました。色々な立場の方の多方面からの意見が聞けて、考えが深まりました。優しく教えてくださり、ありがとうございました。(20代 教員)
- ・先生や当事者の方、NPO法人など、広い範囲の方に会えてよかったです。(60代 福祉関係団体)

- ・もう既に学校付近を丸め込んで活動されている学校があることに、とても嬉しく思いました。(60代 福祉関係団体)
- ・福祉教育の講話の内容が、いろいろな情報が盛り込まれていて勉強になった。(60代 福祉関係団体)
- ・講話：視点がとても良かった  
体験：何をすれば良いかという視点が良かった(60代 福祉関係団体)
- ・地域との交流が大切だと思います。(60代 福祉関係団体)
- ・初めての交流会としては、とても楽しく参加でき、有意義でした。区内の社会資源については、社協でなんとかまとめた冊子を出していただきたいと、痛切に願います。(50代 福祉関係団体)
- ・視覚障害者の方とお話できて、とても参考になりました。いい機会を与えていただき、ありがとうございました。(50代 福祉関係団体)
- ・もっとたくさんの先生方が集まれば意義深かったかなと思った。でもとても良かった。是非継続して欲しい。(70代 福祉関係団体)
- ・「福祉学習とは何か」を振り返り、考える機会になりました。ありがとうございました。私たちの会でも「ボランティア講師研修」として6/7(日)に講座を開きました。小学生、中学生に学んでほしいと考えることが大切だと思います。(福祉関係団体)

#### 4 今後の交流会でやりたいこと、聞いてみたいといったものがございましたらご自由にお書きください。

- ・今回の話の続きで。(40代 教員)
- ・福祉に関わっている方のお話が大変参考になりました。今後の指導に役立てたいです。当事者のお話をもっとたくさん聞きたいと思います。(40代 教員)
- ・グループ協議が大変有意義であった。ひとつのグループでお話したいことを元に、また違うグルーピングをしてさらに深めたグループ協議ができると良い。(40代 教員)
- ・校内への講師依頼の話になった際、事前の打ち合わせ不足が指摘されました。このような場をお借りし、話ができると嬉しいです。(30代 教員)
- ・当事者の方と話をしてみたい。(30代 教員)
- ・今日行った体験等は今後もぜひやっていただきたいです。(20代 教員)
- ・ブラインドサッカーをやりたいです。(20代 教員)
- ・具体的には分かりませんが、また参加したいです。(60代 福祉関係団体)
- ・交流会で一人一人の話が聞けて良かった。(60代 福祉関係団体)
- ・障害児と健常児で皆同じように教育を受ける統合教育について聞いてみたい。(60代 福祉関係団体)
- ・他団体の福祉学習への取り組みをもっと聞いてみたいと思いました。意見交換の時間を増やして欲しいです。(50代 福祉関係団体)
- ・福祉教育ハンドブックに当方が掲載されていないのは何故かな?と思いました。(NPO 法人いっぽいっぽです。)(50代 福祉関係団体)

## 5 今回の交流会でよかった点、悪かった点がありましたらご自由にお書きください。

- ・良い点：様々な立場の方のお話が聞けたこと。
- ・悪い点：高校からの参加者が少ない。(40代 教員)
- ・参考になりました。またお願いします。(40代 教員)
- ・グループ協議で具体的なお話を聞けたこと。福祉学習の見通し(指導計画)のヒントをたくさんいただいた。(40代 教員)
- ・第一回目の開催と伺いました。是非二回目も開催して欲しいです。(30代 教員)
- ・実際に体験でき、当事者の気持ちを感じることができた。人の温かみを感じました。またこういう機会があったら参加してみたい。今日はありがとうございました。(30代 教員)
- ・様々な人と交流ができて、自分の知らないこともあり、学びが深まる時間でした。ありがとうございました。(20代 教員)
- ・先生のお話も、体験も交流もとても良かったです。すべてで学びがありました。職員研修でやったらいいのではないかと思いました。背中にシールを貼ってあつまる、子どもたちの活動で気軽に取り入れられるなあと思いました。(20代 教員)
- ・またよろしくお願ひいたします。これからもお世話になります。(20代 教員)
- ・ゲームが楽しかったです。(60代 福祉関係団体)
- ・多くの学校に参加してほしい。(60代 福祉関係団体)
- ・よかったと思います。またよろしく。(60代 福祉関係団体)
- ・まずは先生たちが認識し、いろいろな障害者や、地域の福祉に目を向けていく大事さを伝えていくバリアフリーを育てなければよいと思います。(60代 福祉関係団体)
- ・体験が短かったのが残念です。(60代 福祉関係団体)
- ・とても有意義な交流会でした。ただ、もっと多くの方に参加していただければいいのに、と考えました。これだけの会、勿体ないです。また、高木先生のお話を伺いたいです。(50代 福祉関係団体)
- ・もっとたくさんの団体の意見を聞いてみたいです。(50代 福祉関係団体)
- ・バラエティーに富んでいて良かった(70代 福祉関係団体)
- ・いろいろな福祉用具の使い方を教えていただきまして、ありがとうございました。(50代 教員)